

物流の適正化・生産性向上に関する自主行動計画

2023.7.10
2023.11.7追記
2023.12.7追記
成田・物流センター

《必須事項の対応》

- ①荷待ち時間・荷役作業等にかかる時間の把握
物流業者からの荷待・納品に関する時間についての要望に関して対応実施
- ②荷待ち・荷役作業等時間の長時間に対する対応
荷待ち・納品時間が2時間以上になった場合、必要に応じ請求に対して料金を支払う
- ③物流管理統括者の選定
ヤマサ成田工場の工場長である、ヤマサ醤油製品部長を物流管理統括者とする
- ④物流の改善提案と協力
納品時間・付帯作業など改善要望に対して対応する
- ⑤運送契約の書面化
運送に関する契約書を取り交わしている
- ⑥荷役作業等に係る対価
長時間待機(2時間以上)、付帯作業(主にバラ降し)に対し請求があれば料金を支払う
- ⑦運賃と料金の別建て契約
運賃表(見積書)と付帯作業の料金は個別に設定している
- ⑧燃料サーチャージの導入・燃料費等の上昇分の価格への反映
業者からの要求があった場合、必要に応じて協議して支払いを行う
(高速料金に関してはエリアによって設定)
- ⑨異常気象時等の運行の中止・中断等
「異常気象時の輸送について」別途処置を定め運用している

《推奨事項の対応》

- ①予約受付システムの導入
・納品先のバース予約システムに対応し、納品時間の短縮に協力
- ②パレット等の活用 標準化
構内作業において、全てパレットを使用し搬送仕分を実施
パレットは1,100×1,100のJPRパレットを使用。加盟店にはそのまま納品。
- ③入出荷業務の効率化に資する機材等の配置
必要数のフォークリフトの設置、バーコードラベルを利用した出庫・搬送
積込確認をバーコードリーダーで実施。
- ④輸送方法・輸送場所の変更による輸送距離の短縮
北海道の物流拠点への輸送は主にJR・海上輸送を利用
- ⑤物流事業者との協議
物流協力会を設置開催し、物流業者とのコミュニケーションを実施
- ⑥物流コストの可視化
物流コスト集計表を利用し、物流コストの項目別費用が解析できる

《中期的な対応》

- ・中一配送により輸配送状況を改善する
(余裕を持った車両の確保・出庫作業、特に繁忙期等の荷待ち時間の短縮)

2023年5月、中一日配送について10月より実施を前提に得意先に案内を行った。
7月、得意先からの要望事項(受注締め時間遅らす等)もあり、締め時間を遅らして対応することとした。

10月は移行期間として今までと同じ体制での出庫を行ったが、11月から順次中一配送に移行。出庫の体制も変更し、出庫・積込の時間も前倒しになっている。段階を追って、さらに出庫・積込の前倒しの検討・実施を行い、持続可能な輸配送を行うためにも根気よく今後も対応してゆく

・付帯作業改善活動実施

業者からの依頼により納品時の付帯作業の削減に向けて活動を行っているが今後も営業を通して納品先への依頼を継続して改善して行く

・物流業者とのコミュニケーション継続

以前から行っている物流協力会などミーティングにおいて、物流業者と課題の共有・解決を行っているが、継続して実施してゆく

・2023年、委託業者からの依頼により、ヤマサ成田工場の敷地の一角を事務所・駐車場として貸与し、運行管理等を中心とした業務管理が行いやすくなり、車両の提供など行いやすくなる環境を整備した。今後も他業者など依頼があればできる限りの対応を行う。

・積込時における予約システムの導入を検討する。積込時の待機時間の短縮を目的とする。